（様式３）

令和元年度　福井型コミュニティ・スクール　実施報告書

福井市宝永小学校

１「家庭・地域・学校協議会」の運営について

（１）「家庭・地域・学校協議会」の構成

【家庭】（２名）ＰＴＡ会長
　　ＰＴＡＯＢ
【地域】（７名）宝永公民館長
　　宝永公民館運営審議委員長
　　まつのき児童館長
　　宝永地区子ども会育成会長
　　福井市主任児童委員
　　聖徳幼稚園代表(園長)
　　ボランティア代表
【学校】（３名）校長、教頭、教務

※地域コーディネーター（２名）
　宝永公民館長、宝永地区子ども会育成会長

（２）協議会の内容

＜第１回（令和元年６月２０日開催）＞
◎協議会の運営について
・年間の活動計画
・学校経営方針の説明
・家庭・地域と学校の連携
＜第２回（令和元年１１月９日開催）＞
◎教育ウィークへの参観
・授業参観
・PTA 会員交流事業への参加
＜第３回（令和２年２月２１日開催）＞
◎学校評価について
・学校評価の集計結果と分析
・本年度の反省と改善方策

（３）協議会における成果と課題

○豊かな心を持つ子どもの育成のためには、価値ある学びを創造するためのカリキュラムを、家庭・地域・学校が連携しながら開発していくことが必要であることを確認した。

○子どもの学習支援や体験活動の充実のためには、学校ボランティアや地域人材の活用が有効である。一方、ボランティアや地域人材「宝の人」の高齢化などの課題もあり、今後、新たなボランティアや地域人材の確保が必要である。

２　地域と進める体験活動

（１）活動のねらい

・地域の行事に積極的に関わり、ふるさと宝永への理解と愛着を深める。
・地域の方々との関わりから様々なことを学び、学校や家庭の生活に生かしていく。

（２）活動の実際

①「ふれあい集会」で地域の人々の営みや歴史に学ぶ（１～６年生）

宝永地区に住む「宝の人」(伝統的な文化や技能を継承している人や一芸に秀でた人等）を１８班の縦割り班毎に自宅や活動場所を訪ねたり、学校に来ていただいたりした。

その中で、話を聞いたり実際に体験したりするなどのふれあいを通し、ふるさと宝永の魅力や伝統文化の良さを知り大切にしていこうとする意識を高めた。児童は、依頼状やお礼状の作成や「宝の人」の紹介、プレゼント作りやカードの準備、当日の進行等、学年や能力に合った役割を一人一人が受け持ち、それを果たすことで自分も参加しているという意識を高めることができた。

②「行灯づくり」（４～６年）

宝永地区の祭り「お泉水フェスタ」の一環である「養浩館ライトアップ事業」に協力、参加した。最初に、４・５・６年の総合や図工の時間を活用し、昨年度の活動の様子を拡大した資

（様式３）

料を用いて、活動の意義や作業の大まかな流れを確認した。写真を拡大したことにより、行灯が実物大の大きさでイメージしやすかったり、絵の図柄がカラーでわかりやすかったりして、児童の意欲を高めるのにたいへん効果的だった。

次に、実際に養浩館内に飾る行灯の絵の制作に取り組んだ。絵には、将来の夢や好きな言葉、伝えたいメッセージなどを織り交ぜて描き、仕上げる。また、絵を描く際には、児童自身がデジカメで撮影した「地域のお　気に入りの風景」の写真、仲間の活動の様子の写真などを利用しながら描くようにした。写真があることで、じっくりと見て描けることや必要に応じて拡大できるので、作業しやすい様子だった。

③「手作りみそ教室」（３年）

地域の企業「米五のみそ」の方２名に来ていただき、３年生がみその作り方を教えてもらい、班ごとに実際にみそを作る活動を行った。みそ作りに必要な材料や大豆をどのように加工するとみそになるのかなどを、みそや大豆の実物を使ってわかりやすく教えていただいた。

④「宝永れきしカルタウォーク」（３年）

宝永公民館が中心となって制作した「宝永れきしカルタ」で取り上げられている地域の名所を、宝永社会教育会の方々や保護者の方々とともに巡る活動である。今年度は３年生が２回に分けて実施した。児童は、語り部の方の説明を聞き、地域の名所や名所にまつわる歴史について理解を深めるとともに、グループに１台ずつ配布されたデジカメで名所の写真を撮り、活動のまとめに利用できるようにした。

（３）地域コーディネーターの活動概要

○地域と連携した行事「ふれあい集会」「行灯づくり」「手作りみそ教室」「宝永れきしカルタウォーク」等で教員をサポートしてくださる指導者やボランティアの方々を紹介・派遣してくださるなど、学校と地域との連絡調整を担当していただいた。また、児童が関わる行事や活動が、よりよいものになるようアイディアを提供したり助言したりしていただいた。

（４）特に工夫した事項

○「ふれあい集会」では、高学年が中心になり、自分たちが学びたい「宝の人」を選んで調整し、縦割り班内で相談して学年に応じた役割を分担し、計画や準備を進めた。

○「行灯づくり」では、児童がテーマ決めに関わり、それを絵や言葉にして表現した。また、並べる順番や位置についても地域の方と相談することができた。

（５）成果と課題

○地域の歴史や行事を学んだり、すばらしい特技を持った「宝の人」とふれあったりすることで、改めて宝永地区を誇りに持ったり、さらに深く地域について学ぼうとしたりする意欲を高める機会になった。

○長年にわたり、地域と連携する学習や体験活動を継続してきたが、活動を地域の方や「宝の人」に頼りがちになる場合も見られた。今年度も「ふれあい集会」で、学年の能力に応じて役割分担をし、計画・準備を進めることに取り組んだり、「行灯づくり」で展示方法を工夫することができたりしたので、「自分たちができることを考えたり工夫したりして参加する」提案参画型の活動になるよう指導の在り方を見直したい。

（様式３）